



特集 言葉のチカラ 突撃！となりの仕事人 学芸員

わかば VOL.24

10-11/2010
長崎市立図書館

編集後記

キラリ作家で紹介した星新一は、私が高校生の時に読んで以来、今も大好きな作家の1人です。寝る前に読むのが習慣で短編で区切りがいいはずなのに、やめられなくて読み進めてしまうことがよくありました。懐かしい思い出です。(編集：A・K)

だいぶ風が涼しくなってきましたね。眠る時、半そでだと寒いくらいです。秋色の服やブーツで歩く人を見かけるようになりました。この号が出る頃にはもっと涼しくなっているんでしょうか？風邪をひかないように気をつけましょう。読書の秋、お気に入りの本が見つかるといいですね♪ (編集：S・T)

今回の表紙は九州をこえて、710(ナント)!! 奈良の興福寺です。観光客にジロジロ見られながら(笑)記念写真をパチリ☆平城遷都1300年祭で盛り上がりつつある今が行き時!?(編集：C・F)

長崎県美術館までインタビューに行ってきました。普段は入れない美術館のバックスペースに入れてもらってドキドキ…。写真でもわかる通り、川瀬さんはユーモアがあってとっても話しやすい方でしたよ。(編集長：M・O)

#YAコーナーからお知らせ#

特集テーマ「言葉のチカラ」

本には、ステキなコトバが一杯詰まっているよ。秋の夜長に読書しながら、好きなコトバを探してみよう。今月はスタッフおすすめの詩集や言葉に関する面白い本を集めてみました。

投稿テーマ「唱えて楽しい！回文づくり」

今月は言葉あそび。上から読んでも下から読んでも同じ言葉になる「回文」をつくってみよう。出来た人はYAコーナーの専用用紙に書いて投稿してね。

#利用についてのお願い#

※自習はスタディールームを利用しましょう。図書館では読書や調べものをされる方のために席をご用意しています。館内の閲覧席での自学自習はご遠慮ください。※玄関前も含めて建物・敷地内では飲食ができません。(レストランだけ例外)

「WAKABA」第24号 (YA通信/10・11月号)
表紙の写真:奈良・興福寺 発行:YA編集部
Nagasaki City Library,2010

突撃となりの仕事人



芸術の秋ですね！ところでみなさんは長崎県美術館に行ったことはありますか？開館5周年となる長崎県美術館では、10月24日(日)まであのスペインの画家エル・グレコの《聖母戴冠》を鑑賞することができますよ！今回はそんな長崎県美術館で働く人に注目！

今月のお仕事 学芸員

仕事人ファイル:4

長崎県美術館
学芸員 川瀬佑介さん



YA: この仕事を目指した理由は？

川瀬: 大学の外国語学部でスペイン語を学んだ時に、スペイン美術が面白いと思ったことがきっかけです。その後、大学院まで進学して「作品を知って、作品をもとに仕事したい」と思って学芸員を目指しました。

YA: 学芸員になるには？

川瀬: 学芸員といっても博物館、水族館、科学館で働く学芸員もいますが、美術館の学芸員になりたい場合は、大学で美術史を学ぶことです。そこで自分が掘り下げて研究したいテーマを見つけること。そうなった場合、大学院に進学することも必須でしょうね。

YA: 中高生にオススメの本は？

川瀬: 須賀敦子/著『ミラノ霧の風景』
外国に興味があったので、自分が知っている世界が全てではないという一種のカルチャーショックを与えてくれた本です。日本語がすごくキレイですよ。

YA: お休みの日は何をしていますか？

川瀬: 料理です。長崎は魚が美味しいので、魚を使った料理を開拓中です。

YA: 最後にこの仕事を目指す人たちにメッセージをお願いします。

川瀬: 学芸員でも研究に没頭するだけでなく、表現力や文章力、コミュニケーション能力など色んなことに適応する能力が必要だと思います。だから今は、学芸員になるということだけ考えずに、自分を知的に豊かにすること。知的な可能性を広げることで、自分のやりたいことはついてくると思います。みなさんには、幅広い興味を持って何事にも好奇心旺盛にチャレンジしてほしいです。

川瀬さん、お忙しい中貴重なお話ありがとうございました！次回の「仕事人」もお楽しみに！

YA: この仕事のやりがいはどこですか？

川瀬: 学芸員の仕事は、「<作品>をみせる」こと。お客さまが作品と触れ合う機会をプロデュースするなど、自分の頭で考えたことが色んなところで再現できるところにやりがいを感じます。三次元的空間である「<展覧会>をつくる」ことと、展覧会カタログを編集するなど「<書籍>をつくる」ことのどちらにも関わられるのが学芸員の大きな魅力です。

YA: この仕事の大変なところは？

川瀬: 展覧会の全てのことに関わるため仕事量が多いところです。なかなか研究する時間がとれません。個人的には、展示室の「空間をデザインする」分野で苦労しています。

YA: 現在研究されていることは？

川瀬: 19世紀スペインの「ソローリャ」という画家を研究しています。

「落ちこぼれ」 茨木のり子詩集 詩と歩こう 茨木のり子/著 水内喜久雄/選 著 理論社 Y/911.5/イ (¥1400)

このタイトルを見て「自分のことも!？」と思ってしまった人はぜひ読んでほしい。母のようにあたたかい眼差しで綴られたこの詩集は、10代のココロによく効きます。



「またたび浴びたタマ」 村上春樹/文 友沢ミミヨ/画 文藝春秋 2階一般/807.9/ム (¥1286)

「値段、足したんだね」「世界に乾物、文化に生かせ」など、44個の回文にショートストーリーと友沢ミミヨの画を付けた、究極の回文50音かるた。



「NHK気になることば 調べてナットク意外な発見!」 NHKアナウンス室/編 東京書籍 Y/810.4/エ (¥1400)

「動物の数え方 1匹?1頭?」「豚汁はブタシル?トンシル?」など、何気なく使っていても改めて考えるとよく分からない言葉はありませんか? そんな疑問をNHKアナウンサーが1語ずつ紹介しています。見開き1ページでカンタン解消! シリーズで2冊あります。

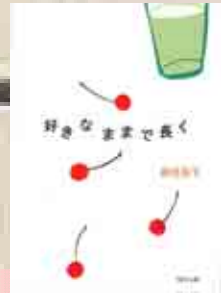


「サキサキ オノマトペの短歌」 穂村弘/編 高島那生/絵 岩崎書店 Y/911.1/サ (¥1400)

オノマトペとは、「ガサッ」「くたくた」など音や状態をあらわす言葉です。この本にはオノマトペを使った短歌が14首収録されています。5・7・5・7・7の31音で鮮やかな世界がひろがります。声に出して読むと、言葉のリズムが心地よいです。

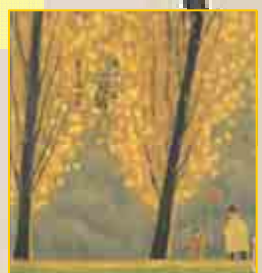
「好きなままで長く」 銀色 夏生/著 角川書店 B/911.5/ギ (¥533)

ふとめくったページの言葉に励まされたり、共感したり。イラストやデザインも素敵な詩集です。



「きょうも天気」 まど・みちお/詩 谷内こうた/絵 至光社 2階一般/911.5/マ (¥1200)

今年の11月で101歳になる、まど・みちおさん。何気ない毎日のなかで生まれた詩のなかから、季節をテーマに集めた詩集です。みずみずしい感性から紡ぎ出されたあたたかい言葉に、ほっこり笑顔になる1冊。



言葉のチカラ

キラリ作家★

第4回キラリ作家☆は星 新一です。

星 新一

1926(大正15年)9月6日生まれ東京出身の作家です。本名は星親一。祖父は人類学者の小金井良精、祖母は森鷗外の妹という家系で育ちます。さらに父が星製菓の創業者だったので、大学中退後に後を継いで社長になりますが、1958年には社長業を辞めて作家に転身します。「妄想銀行」で日本推理作家協会賞を受賞した他、日本SF大賞も受賞し、SF作家として活躍します。

ショート・ショートで、1000以上の作品を発表しているので、どこかで読んだことがある人もいるのでは? 奇想天外な展開と無駄をそぎ落とした文章は読みやすく、YA世代のみなさんには特におすすめです。図書館には星新一の(手軽に持ち歩ける)文庫本が沢山揃っているので、手に取ってみてくださいね。



《SF長編》インターネット社会を予言した傑作

「声の網」 星新一/著 改版 角川書店 B/913.6/ホシ(¥438)



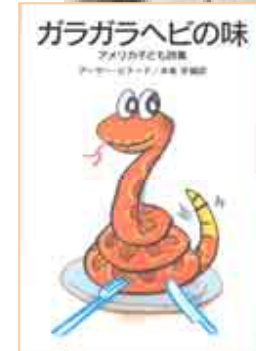
《ショートショート集》短編「処刑」は必読です。



《ショートショート集》ロボットや宇宙人など不思議なお話がたっぷり!

「きまぐれロボット」 星新一/著 改版 角川書店 (¥362)

「ようこそ地球さん」 星新一/著 改版 新潮社 B/913.6/ホシ (¥427)



「ガラガラヘビの味 アメリカ子ども詩集」アーサー ビナード/編訳 木坂涼/編訳 岩波書店 児童/931/ガ (¥640)

岩波少年文庫創刊60周年を記念して発行されたこの本は、年代も様々なアメリカの詩人たちの詩をちよとずつ「つまみぐい」できる、とっても楽しい詩集です。しりあがり寿さんのイラストも魅力的。

「夜のミッキー・マウス」 谷川 俊太郎/著 新潮社 B/911.5/タ (¥324)

ミッキー・マウスも Donald Duck も プルートも アトムも、時空を越えて存在している...この上ない言葉たちが誘う、この上ない世界とのかわり方を収録した1冊。

